大阪府立枚方高等学校平成 29 年度第３回学校協議会（概要）

平成 30 年１月 29 日（月）

○出席者

・委員

堅田利明　関西外国語大学　准教授

福田順子　株式会社サン・テクノス役員

水嶋忠雄　本校ＰＴＡ会長

井谷和子　枚方市立枚方保育所長

・枚方高校

松浦正明　校長

田原　聡　教頭

山口範晃　事務長

中村真司　首席

前出和彦　首席

宇都宮昭夫　教務主任

富田哲司　進路指導主事

藤本信吾　生徒指導主事

○次第

１．学校長挨拶

２．事務局より

⑴平成 29 年度学校経営計画及び学校評価、授業アンケートについて

⑵学校教育自己診断について

⑶進路について

３．協議・意見交換

４．謝辞

事務局より

【学校長より】

□ 学校経営協議会の設置について

次年度より全府立学校に学校運営協議会が設置される。これによって保護者の方、地域の方にいっそう学校運営に参画していただくことになる。

□ 平成 29 年度学校経営計画及び学校評価について

・学習指導について、中長期的展望にたった取り組みを進めた。

・「授業アンケート」及び「学校教育自己診断」において、授業について一定の評価を得

た。

・生活指導について、校則を確認し、生徒部を中心に教員が課題認識を共有して指導に取り組み、遅刻者数は前年度よりさらに減少した。

・グローバル教育について、英語力の育成に取り組む。また国際交流に力を入れ、15 日間のオーストラリア語学研修を夏季休業中に実施。1 月に香港より高校生が来校し、交流した。

・進路保障について、学力到達度の評価の数値の上昇を目標にして課題に取り組んでいる。

・学校教育自己診断の保護者、生徒のアンケートによる評価では、若干肯定率を下げたものもあるが、概ね良好な評価を得ている。

・授業アンケートのデータの分析では、数値は年度を更新するたびに上昇し、概ね教員の努力が評価されているといえるのではないか。

・ただ上記アンケートでは授業の進め方等に対する要望もあり、今後とも丁寧な授業になるよう努力して行きたい。

【首席より】

□ 学校教育自己診断の結果と分析

・保護者、生徒、教職員アンケートを実施。アンケート項目は昨年度とほぼ同じ。ＡＢＣＤＥの５段階で評価。ＡＢを肯定的な評価とし、その割合を肯定率として算出。

○保護者アンケート結果

・保護者アンケートの提出率は 66%程度、去年並み。

・多くの診断項目で肯定率が高いものが半数あり、本校の取組みが一定評価されている。

・学校生活に対する満足度はかなり高い。

・学校の取組みが十分に情報発信できず、保護者の評価が低くなった項目があると思われる。

○生徒アンケート

・授業に関する項目の肯定率が比較的高く、授業に対する満足度があると考えられる。

○教職員アンケート

・教職員アンケートの提出率は約 60%で前年度並み

・「授業」に関する項目の肯定率は高い。

・読書指導についての肯定率評価が低い。

【進路指導主事より】

□ 進路報告について（今年度の進路状況等）

・指定校推薦の受験者はここ数年では最も多い。

・公募制推薦は現状ではかなり厳しい結果が出ている。大学の定員厳格化などを受けて、志望先を変更するものも多い。

・センター試験受験者は昨年度なみ。国公立の受験者数を増やすことが課題。
・1,2 年生に対しては総合的学習の時間やホームルームなどを利用して、学習習慣形成に向けての取組みに力を入れている。

委員からの提言等
○授業アンケートはどのように活用されるのか。
→　アンケートの結果は個票として教員に返却される。授業改善にむけての参考とする。
○学校教育自己診断で授業への評価、および学校生活への評価が高いことは注目される。
読書指導についての評価が低いが、何か対策はしたのか。
→　図書館を活用するキャンペーンなどをしている。
○図書館を自習に使ったりはするのか。
→　放課後等、自習用に開放する。しかし教職員の会議等で閉館する日もある。
○保育所の児童は考える力をすごく持っていると感じる。その児童が高校生になり、社会に出ていって生き生き活躍するためにも就学前の教育が大切だと感じた。
○センター試験の出願と受験者数はかなり違っているがなぜか。
→　センター出願のあと、公募制推薦等の結果によって、センター受験に至らない生徒もいる。
○高校入学以前に社会とつながるような経験ができている生徒は、社会へ出て行っても生き生きと活躍できるのだろうと思う。